

地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業の概要（案）

1 趣旨目的

地域医療構想の実現に向けた取り組みを推進するため、当該事業により幅広く地域課題などの現状把握や地域の医療需要の推移、医療資源等に関してデータ分析を行い、地域医療の課題の抽出を図る。

2 データ分析の体制

- 診療に関する学識経験者（京都大学・京都府立医科大学）
- 医療関係団体（京都府医師会・京都府病院協会・京都私立病院協会）
- 地域医療構想アドバイザー

3 分析内容

- 利用データ
医療保険レセプト、介護保険レセプト、健診データ、DPC データなど
- 分析内容
 - ・ 2025～2040 年に向けた医療需要を医療必要度や将来人口推計に基づき推計
 - ・ 二次医療圏ごとの医師数・看護師数の現状と推計
 - ・ ロジックモデルに沿った 5 疾病 6 事業及び在宅医療の現状を地域別指標として算出 等

4 スケジュール

- 令和 5 年 4 月 厚労省から採択結果通知
- 令和 5 年 6 月～ 事業内容にかかる関係者協議、データ分析開始
- 令和 5 年 11 月～ 分析結果に基づく考察
- 令和 6 年 1 月～ 地域医療構想調整会議での結果の提示

地域医療提供体制データ分析子チーム構築支援事業

令和4年度第二次補正予算 3.0億円 (一) ※0内は当初予算額

1 事業の目的

- 都道府県は、R5年度中に第8次医療計画を策定 (R6~R11年度) するとともに、地域医療構想の実現に向け、R4~5年度において医療機関の対応方針の策定等を進めている。
- 計画策定には、地域の現場感覚とマッチしたデータ分析が必要であるため、都道府県におけるデータ分析体制の構築を支援。
- 分析事例を集積し、分析体制のベストプラクティスを検討・実践することで、計画策定に限らず、令和7年及び2040年に向けた地域医療構想の推進についで、都道府県が自立的に分析・企画・立案できる体制の整備に繋げる。

2 事業の概要

- 都道府県を対象に、R4厚生労働科学研究の成果を踏まえた都道府県におけるデータ分析チームの構築を支援する。
- 都道府県は、データ分析チームを活用して、地域 (二次医療圏、構想区域) の詳細分析を実施することにより、一層地域の実情に即した医療計画の策定が可能となる。
- 都道府県は、分析体制や分析結果、計画策定におけるデータに基づく議論の成果について事例発表を行い、取組の横展開や事例の集積を図る。

3 事業スキーム・実施主体等

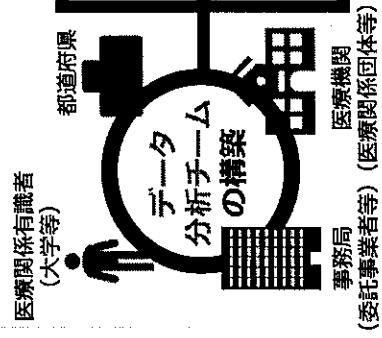
補助基準額：1個所当たり30,000千円、補助率：定額
実施主体：都道府県

R4年度

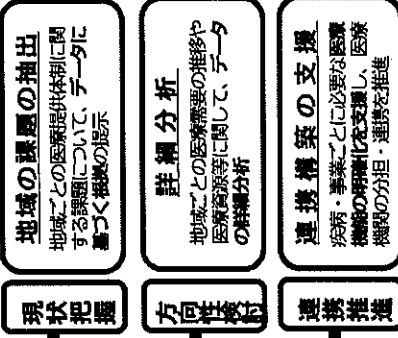
＜国＞ 厚生労働科学研究

- ・ 地域の実情に即したデータ分析手法を地域で求められ検証し、パッケージ化

成果



＜都道府県＞ 分析体制の構築・分析手法の実証

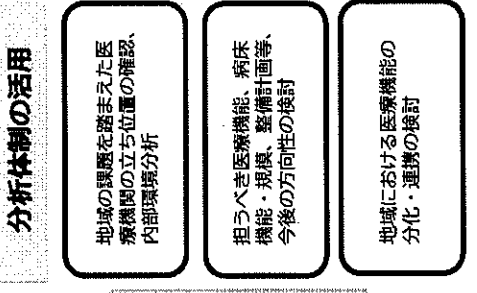


R4~5年度：研究成果の実証、事例の横展開・集積

第8次医療計画の策定

取組の発展による
取組の発展・集積

分析体制の
ベストプラクティスを検討



R6~7年度

地域医療を支える体制の構築